

平成30年度病害虫発生予察情報

特殊報第3号

平成30年12月25日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 和名：モトジロアザミウマ
 学名：*Echinothrips americanus* Morgan

1 経緯

平成30年11月に県南地方のポインセチア栽培施設において、葉がかすり状になる症状が見られるとの情報が寄せられた。現地を調査したところ、ポインセチアの下葉がかすり状となり、葉上に暗褐色のアザミウマの寄生を確認した（写真1、2）。成虫と幼虫を採取し、国立大学法人福島大学共生システム理工学類の塘忠顕教授に同定を依頼したところ、モトジロアザミウマであることが確認された。その後の調査で、当該施設内のタネツケバナ、キク科雑草、ダリア残花等でも成虫の寄生を確認した（写真3）。当該施設以外の周辺の花き栽培施設では、本種は確認されなかった。

本種は、平成11年に東京都のインゲンマメ、平成14年に愛知県のシソ（オオバ）、平成15年に高知県のミョウガ、平成16年に鹿児島県のハイビスカス、平成25年に香川県のディーフェンバキア及びシンゴニウム、栃木県のハイビスカス、平成26年に宮崎県のピーマンで発生が確認されているが、本種による被害は県内初確認である。

2 形態

成虫は体色が暗褐色で、前翅の付け根及び中央が灰白色、頭部と胸部の節間が赤みを帯びている。雌の体長は約1.3mmで雄は約1.2mmである（写真4）。1齢幼虫は黄白色をしており、体長約0.5mm、2齢幼虫は黄色で体長は0.7~1.2mmで体全体が刺毛に覆われている。第1蛹はやや細長く、第2蛹は胸部から腹部にかけてやや膨らんでおり、体色は白く、体長は1.1~1.3mmで体全体にやや太い刺毛がある（写真5）。幼虫及び蛹の複眼は赤色である。

3 生態と被害状況

本種は温室害虫として国内外で発生している。卵から成虫までの生育期間は20℃で33.9日、25℃で15.0日、30℃で11.4日とされ、高温下ではかなり短期間に世代が繰り返される。

主に中・下位葉に寄生し、食害を受けた葉はかすり状になり、蔓延すると落葉する。寄主範囲は広く、花き類のポインセチア、バラ、ハイビスカス、施設野菜のウリ科（キュウリ、メロン）、ナス科（トマト、ナス、ピーマン）、インゲンマメ、シソの他多くの植物で寄生及び加害が確認されている。イチゴ、フキ、エンドウにはほとんど寄生しない。

4 防除対策

- (1) 施設開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛来を防ぐ。
- (2) 施設内の雑草、残花を適切に処理し、寄生を防ぐ。
- (3) 他県での薬剤感受性検定の結果、スピノシン系の薬剤（スピノエース顆粒水和剤）が成虫及び幼虫に効果が高いことが報告されている。



写真1 モトジロアザミウマによる
ポインセチアの被害葉

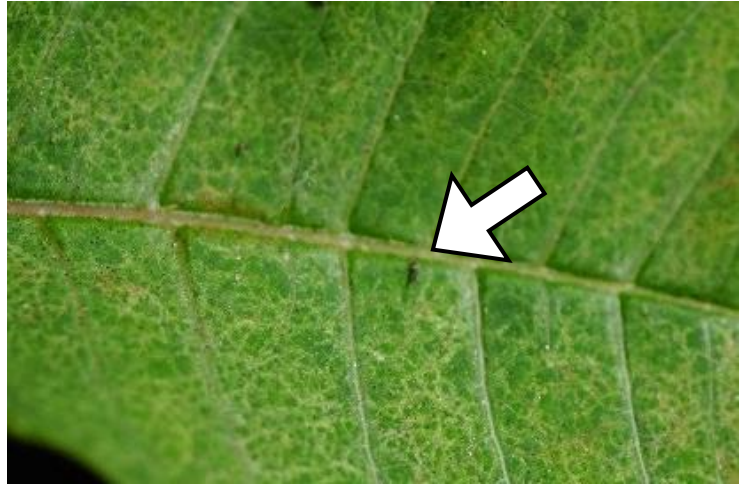


写真2 葉に寄生するモトジロアザミウマ



写真3 モトジロアザミウマの寄生が確認
された施設内の雑草



写真4 モトジロアザミウマ成虫



写真5 モトジロアザミウマ第2 蛹